

令和2年度学校経営計画 令和2年度～令和4年度

校番	112	学校名	広島県立呉特別支援学校	校長氏名	古谷 晶江	☎・定・通	☎・分
----	-----	-----	-------------	------	-------	-------	-----

1 ミッション（地域社会における自校の使命）

○これからの変化の激しい社会で、自立し、たくましく生きていくために必要な資質・能力を高め、主体的に課題解決に取り組む児童生徒を育成する。

○呉市(北部)、安芸郡、広島市安芸区地域における特別支援教育の拠点校として、センター的機能を果たす。

2 ビジョン（使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像）

○児童生徒が自立したくましく生きていくために必要な資質、能力を育成する学校
育てたい子ども像

知：学習活動を通して、自ら学び伸びようとする子ども。
徳：人との関わりの中で、他者を尊重する心を持つ子ども。
体：健康で安全に生活できる知識と体力を身に付けた子ども。
言語活動：理解できる言葉を多く持ち、自分の意思を伝えるスキルを身に付けている子ども。

○児童生徒が健康で安心・安全に活動できる学校
○地域社会に開かれ、地域社会に貢献する学校

3 環境分析（組織機能等）

児童生徒数の推移

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31(令和元)年度	令和2年度
小学部	32	30	23	23	26	33
中学部	28	25	26	25	25	23
高等部	82	76	54	60	51	50
計	142	131	103	108	102	106

地域別児童生徒数

(人)

年度	平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度			平成31(令和元)年度			令和2年度		
	小	中	高	小	中	高	小	中	高	小	中	高	小	中	高	小	中	高
呉市	20	8	51	16	6	36	10	7	14	6	10	17	11	11	16	9	12	19
安芸郡	9	16	25	12	14	34	9	16	34	13	13	38	11	12	29	20	9	26
広島市	3	4	6	3	5	6	4	3	6	4	2	5	4	2	6	4	2	5

地域に向けた取組

(実績)

内容	指標	H29	H30	H31(R1)	内容	指標	H29	H30	H31(R1)
校外集団作業実習	回数	9回	9回	6回	オープンスクール	来校者数	64人	73人	72人
地域清掃ボランティア	回数	9回	9回※	8回	公開授業研究会	参加者数	17人	26人	18人
パティオカフェ来校者数	来校者数	120人	120人	170人	企業の参観日	参加者数	36人	26人	40人

※校外カフェ：3回を含む

(1) 児童生徒及び地域の実態と教育課題

ア 系統的・計画的指導と地域貢献

平成26年度の特別支援学校の再編整備により、平成28年度以降呉市外から通学する児童生徒数が呉市から通学する児童生徒数を上回るようになった。平成29年度まで連続して児童生徒数が減少し100名程度となったが、以後ほぼこの人数で学校規模が維持されている。パティオカフェ・商業施設等への校外カフェ、地域清掃ボランティアなどを通して、地域の人々及び団体と関係づくりが進み、本校への注目がさらに高まってきており、児童生徒の主体的な態度を促し、地域に貢献できる児童生徒を育成するために、小学部から高等部まで12年間の系統的・計画的な指導を充実させる。

イ 授業研究・授業改善による「育てたい子ども像」の実現

児童生徒の障害の実態は多様でその程度が幅広く、障害の状態に応じた支援・指導が必要であり、教職員の専門性の向上、授業力の向上に継続的に取り組む必要がある。さらに個々の児童生徒の実態を適切に把握し、個別の指導計画に基づいて、児童生徒の「主体的な学び」を促す授業が計画的、効果的に実施できるよう、組織的な授業研究・授業改善に取り組んでいく。

ウ 呉特支版「学びの変革」の推進

児童生徒の「育てたい子ども像」の実現を目指して、呉特支版「学びの変革」に関わる取組を進めていく。新学習指導要領に対応した教育課程、年間指導計画、単元構成表、系統表及び単元計画を基に、さらに組織的・体系的な授業づくりに取り組み、育成する資質・能力を的確に評価する学習評価の在り方に焦点を当てた授業改善を図る。

		外部環境	
		機会(+)	脅威(-)
<p>【育てたい子ども像】 知：学習活動を通して、自ら学び伸びようとする子ども。 徳：人との関わりの中で、他者を尊重する心を持つ子ども。 体：健康で安全に生活できる知識と体力を身に付けた子ども。 言語活動：理解できる言葉を多く持ち、自分の意思を伝えるスキルを身に付けている子ども。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業研究会や各種研修会及びパティオカフェ、出張カフェ等、地域へ発信する取組を進めることで、学校への認知度が上がってきた。 2 ホームページに学校活動を速やかに掲載している。 3 理学療法士、作業療法士等の外部人材、地域の企業から支援を受け、指導の充実につなげている。 4 校外集団作業実習や地域清掃ボランティアで、相手先から生徒の作業態度の良さに高評価を得ている。 5 PTA 役員を中心に保護者が連携し、学校を支える体制が強い。 6 保護者の学校に対する関心が高く、参観日等来校者が多い。 7 地域に小中学校があり、学校間交流の充実を図ることができる。 8 姉妹校提携をした台湾の特別支援学校と修学旅行での交流を行い、国際理解教育を進めている。 9 生徒が参加できる行事等が地域にある。 10 職場実習等の受入企業が増加傾向にある。 11 教育資源を提供してくれる地域企業がある。 12 学校運営協議会を設置している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域の人と関わる機会が少ない。 2 学校間交流を行っているのは小学部だけであり、児童生徒が地域校と交流する機会が少ない。 3 公共交通機関の利用が不便である。 4 学校敷地の一部が土砂災害警戒区域に含まれている。
強み(十)	<ol style="list-style-type: none"> 1 単元構成表及び単元系統表を基にした小学部から高等部まで系統性のある教育課程を編成している。 2 作業学習等、縦割り活動や類型間の連携がある。 3 教育研究が進み、授業づくりを進めている。 4 制服を導入し、本校の生徒である自覚が定着してきた。 5 自立活動室があり、重複障害の児童生徒も体を動かす環境が充実している。 6 運動部活動があり、競技大会に参加している。 7 各学部で救急シミュレーションを行い、危機管理の意識が高い。 8 専任の教育相談主任及び JST が在籍している。 9 看護師を配置しており、児童生徒の医ケアに関する相談・連携を行いやすい。 10 栄養士による食に関する情報を発信している。 11 防災体制の強化、防災教育の充実等、教職員の防災に係る意識が高まっている。 12 全職員で業務改善に係る検討を行っている。 	<p>I 小学部、中学部、高等部の系統的な教育内容を実施する。 ○小中高の縦割りによる教科会での教科等見直し ○一人一回研究授業の実施 ○公開授業研究会や公開研修会の実施 ○指導略案による授業評価 ○教育課程の見直し</p> <p>II 地域資源の活用・社会的自立に向けた取組を充実する。 ○定期的なパティオカフェの実施 ○出張カフェサービスの充実展開 ○昭和地区行事・活動への参加 ○校外集団清掃活動・地域清掃ボランティアの実施 ○サイバー犯罪防止についての研修実施 ○「企業・地域校の参観日」の実施 ○「チャレンジ呉」の企画・実施 ○掲示板やモニターによる学校行事等の紹介 ●地域店の学校コーナー設置(作業学習製品)</p> <p>III 専門的・体験的な授業等を推進する。 ○カープ選手との交流会の実施 ○外部人材や地域人材による部活動指導 ○地域人材による出前授業の実施 ●専門家による防災教育、安全教育の実施 ●芸術やスポーツに係る外部講師の招聘</p>	<p>I 小学部、中学部、高等部の系統的な教育内容を実施する。 ●他学部の授業参観の実施</p> <p>II 地域資源の活用・社会的自立に向けた取組を充実する。 ○情報発信の充実</p> <p>III 専門的・体験的な授業等を推進する。 ○災害避難訓練の充実 ●地域清掃場所の拡大</p>
弱み(十)	<ol style="list-style-type: none"> 1 目標設定が不十分で、学習評価をさらに充実させる必要がある。 2 学部間、分掌間等で情報共有や意識の統一が十分できておらず、指導の継続性、一貫性が不十分である。 3 教材・教具の管理が不十分で共有できていない。 4 校内 LAN、無線 LAN 等のネットワーク環境が制限されている。 5 ICT を積極的に活用していない。 6 挨拶や身だしなみ等、特別支援学校技能検定等の特定の場面ではできているが、日常的に意識できていない。 7 外部に出向いて活動する生徒が限られている。 8 部活動は運動部しかなく、所属部員が少ない。 9 地域を活用した教育(防災教育、安全教育等)が少ない。 10 定期的な敷地内環境整備ができていない。 	<p>I 小学部、中学部、高等部の系統的な教育内容を実施する。 ○「主体的な学び」を育む単元開発 ○計画的、継続的な研修の実施 ○運動会・文化祭など全校行事の充実 ●ICT を活用した授業づくり</p> <p>II 地域資源の活用・社会的自立に向けた取組を充実する。 ●全校展開によるパティオカフェの実施 ●地域企業とのタイアップ製品開発 ●交流及び共同学習の充実</p> <p>III 専門的・体験的な授業等を推進する。 ○外部人材、ボランティアを活用した取組(教科指導、歯科衛生指導、教材教具の修繕制作等)</p>	<p>I 小学部、中学部、高等部の系統的な教育内容を実施する。 ●参観日、学校行事等の機会を通じた学習活動の取組紹介</p> <p>II 地域資源の活用・社会的自立に向けた取組を充実する。 ●卒業生を招聘した進路報告会の実施</p> <p>III 専門的・体験的な授業等を推進する。 ●情報機器を活用し、合理的配慮が充実した授業実践の推進 ●音響遮断ができる教室設備の充実</p>

4 目標の設定

達成目標	評価指標	実績値	目標値			担当部等
		平成31 (令和元) 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	
1 児童生徒の学力の向上【知】						
児童生徒の学力の向上に向けての教育課程編成の推進	教員アンケートによる肯定的評価の割合	—	70%	75%	80%	教務部
児童生徒の主体的に学習に取り組む態度の育成に関わる授業改善の推進	教職員アンケートによる肯定的評価の割合	—	70%	75%	80%	教育研究部
2 児童生徒の豊かな心の育成【徳】						
生徒指導上の諸問題対策の推進	教職員アンケートによる肯定的評価の割合	—	70%	72%	75%	生徒指導部
児童生徒の能力や可能性を最大限に伸ばす教育活動	コンクール・大会、作品展等への応募回数	9回	12回	12回	12回	全学部
3 児童生徒の健康・体力の向上【体】						
児童生徒が将来的に、望ましい食行動・食習慣を身に付け、健康の保持増進を図る教育活動。	個々の児童生徒の目標達成率	—	60%	65%	70%	保健安全部
4 自立と社会参加を目指し、地域貢献できる力の育成						
社会的自立に向けた取組の充実	技能検定（校内検定を含む）上位級取得者の割合	58%	60%	62%	64%	進路指導部
呉特別支援学校の情報発信	保護者アンケート（満足度）	92%	95%	95%	95%	総務部
地域の教育関係者を対象とした研修会・巡回相談（研修協力）の充実	参加者アンケート（研修の満足度） ※数値によるアンケート	—	70%	80%	90%	教育相談部
5 組織的・効率的な業務の遂行						
「子どもと向き合う時間」の確保の実感	教職員アンケートによる肯定的評価の割合	—	48%	前年度肯定的評価の割合+5%	前年度肯定的評価の割合+5%	学校衛生委員会

令和2年度学校経営計画 評価基準

1 児童生徒の学力の向上【知】				
達成目標	評価基準		評価	担当部署
	中間時	年度末		
児童生徒の学力の向上に向けての教育課程編成の推進	教育課程編成に関わる教員アンケート（中間）の肯定的評価の割合が50%以上	教育課程編成に関わる教員アンケート（年度末）の肯定的評価の割合が70%以上	A	教務部
	教育課程編成に関わる教員アンケート（中間）の肯定的評価の割合が40%以上50%未満	教育課程編成に関わる教員アンケート（年度末）の肯定的評価の割合が60%以上70%未満	B	
	教育課程編成に関わる教員アンケート（中間）の肯定的評価の割合が30%以上40%未満	教育課程編成に関わる教員アンケート（年度末）の肯定的評価の割合が50%以上60%未満	C	
	教育課程編成に関わる教員アンケート（中間）の肯定的評価の割合が20%以上30%未満	教育課程編成に関わる教員アンケート（年度末）の肯定的評価の割合が40%以上50%未満	D	
児童生徒の主体的に学習に取り組む態度の育成に関わる授業改善の推進	授業改善に関わる教員アンケート（中間）の肯定的評価の割合が50%以上	授業改善に関わる教員アンケート（年度末）の肯定的評価の割合が70%以上	A	教育 研究部
	授業改善に関わる教員アンケート（中間）の肯定的評価の割合が40%以上50%未満	授業改善に関わる教員アンケート（年度末）の肯定的評価の割合が60%以上70%未満	B	
	授業改善に関わる教員アンケート（中間）の肯定的評価の割合が30%以上40%未満	授業改善に関わる教員アンケート（年度末）の肯定的評価の割合が50%以上60%未満	C	
	授業改善に関わる教員アンケート（中間）の肯定的評価の割合が20%以上30%未満	授業改善に関わる教員アンケート（年度末）の肯定的評価の割合が40%以上50%未満	D	
2 児童生徒の豊かな心の育成【徳】				
生徒指導上の諸問題対策の推進	中間アンケートの肯定的評価の割合が50%以上	年度末アンケートの肯定的評価の割合が70%以上	A	生徒 指導部
	中間アンケートの肯定的評価の割合が40%以上50%未満	年度末アンケートの肯定的評価の割合が60%以上70%未満	B	
	中間アンケートの肯定的評価の割合が40%以上50%未満	年度末アンケートの肯定的評価の割合が50%以上60%未満	C	
	中間アンケートの肯定的評価の割合が20%以上30%未満	年度末アンケートの肯定的評価の割合が40%以上50%未満	D	
児童生徒の能力や可能性を最大限に伸ばす教育活動	コンクール、大会、作品展等への応募・出展が6回以上	コンクール、大会、作品展等への応募・出展が12回以上	A	全学部
	コンクール、大会、作品展等への応募・出展が4回以上	コンクール、大会、作品展等への応募・出展が8回以上	B	
	コンクール、大会、作品展等への応募・出展が2回以上	コンクール、大会、作品展等への応募・出展が4回以上	C	
	コンクール、大会、作品展等への応募・出展が1回以下	コンクール、大会、作品展等への応募・出展が3回以下	D	
3 児童生徒の健康・体力の向上【体】				
児童生徒が将来的に、望ましい食行動・食習慣を身に付け、健康の保持増進を図る教育活動	個々の児童生徒の目標達成率が全体の50%以上	個々の児童生徒の目標達成率が全体の60%以上	A	保健 安全部
	個々の児童生徒の目標達成率が全体の40%以上50%未満	個々の児童生徒の目標達成率が全体の50%以上60%未満	B	
	個々の児童生徒の目標達成率が全体の30%以上40%未満	個々の児童生徒の目標達成率が全体の40%以上50%未満	C	
	個々の児童生徒の目標達成率が全体の30%未満	個々の児童生徒の目標達成率が全体の40%未満	D	
4 自立と社会参加を目指し、地域貢献できる力の育成				
社会的自立に向けた取組の充実	技能検定上位級(1~3級)及び前年度より上位の級取得者の割合が60%以上	技能検定上位級(1~3級)及び前年度より上位の級取得者の割合が60%以上	A	進路 指導部
	技能検定上位級(1~3級)及び前年度より上位の級取得者の割合が58%以上60%未満	技能検定上位級(1~3級)及び前年度より上位の級取得者の割合が58%以上60%未満	B	
	技能検定上位級(1~3級)及び前年度より上位の級取得者の割合が56%以上58%未満	技能検定上位級(1~3級)及び前年度より上位の級取得者の割合が56%以上58%未満	C	
	技能検定上位級(1~3級)及び前年度より上位の級取得者の割合が56%未満	技能検定上位級(1~3級)及び前年度より上位の級取得者の割合が56%未満	D	
呉特別支援学校の情報発信 ※中間時は参考評価	HPを利用した情報公開を行う前期16回以上	保護者アンケートによる満足度が全体の95%以上	A	総務部
	HPを利用した情報公開を行う前期10回以上15回以下	保護者アンケートによる満足度が全体の90%以上94%未満	B	
	HPを利用した情報公開を行う前期6回以上10回以下	保護者アンケートによる満足度が全体の80%以上89%未満	C	
	HPを利用した情報公開を行う前期5回以下	保護者アンケートによる満足度が全体の80%未満	D	
地域の教育関係者を対象とした研修会の開催	「企業・地域校の参観日」の参加者を対象としたアンケートの肯定的評価の割合が90%以上	巡回相談（研修協力）の対象者へのアンケートの肯定的評価の割合が70%以上	A	教育 相談部
	「企業・地域校の参観日」の参加者を対象としたアンケートの肯定的評価の割合が85%以上90%未満	巡回相談（研修協力）の対象者へのアンケートの肯定的評価の割合が65%以上70%未満	B	
	「企業・地域校の参観日」の参加者を対象としたアンケートの肯定的評価の割合が80%以上85%未満	巡回相談（研修協力）の対象者へのアンケートの肯定的評価の割合が60%以上65%未満	C	
	「企業・地域校の参観日」の参加者を対象としたアンケートの肯定的評価の割合が80%未満	巡回相談（研修協力）の対象者へのアンケートの肯定的評価の割合が60%未満	D	
5 組織的・効率的な業務の遂行				
「子どもと向き合う時間」の確保の実感	43%以上（前年度肯定的評価33%）	中間アンケートに対する年度末アンケートの肯定的評価+5%以上	A	学校衛生 委員会
	38%以上43%未満	中間アンケートに対する年度末アンケートの肯定的評価+3%以上+5%未満	B	
	34%以上38%未満	中間アンケートに対する年度末アンケートの肯定的評価+1%以上+3%未満	C	
	33%以下	中間アンケートに対する年度末アンケートの肯定的評価変化がなし、マイナスである	D	

